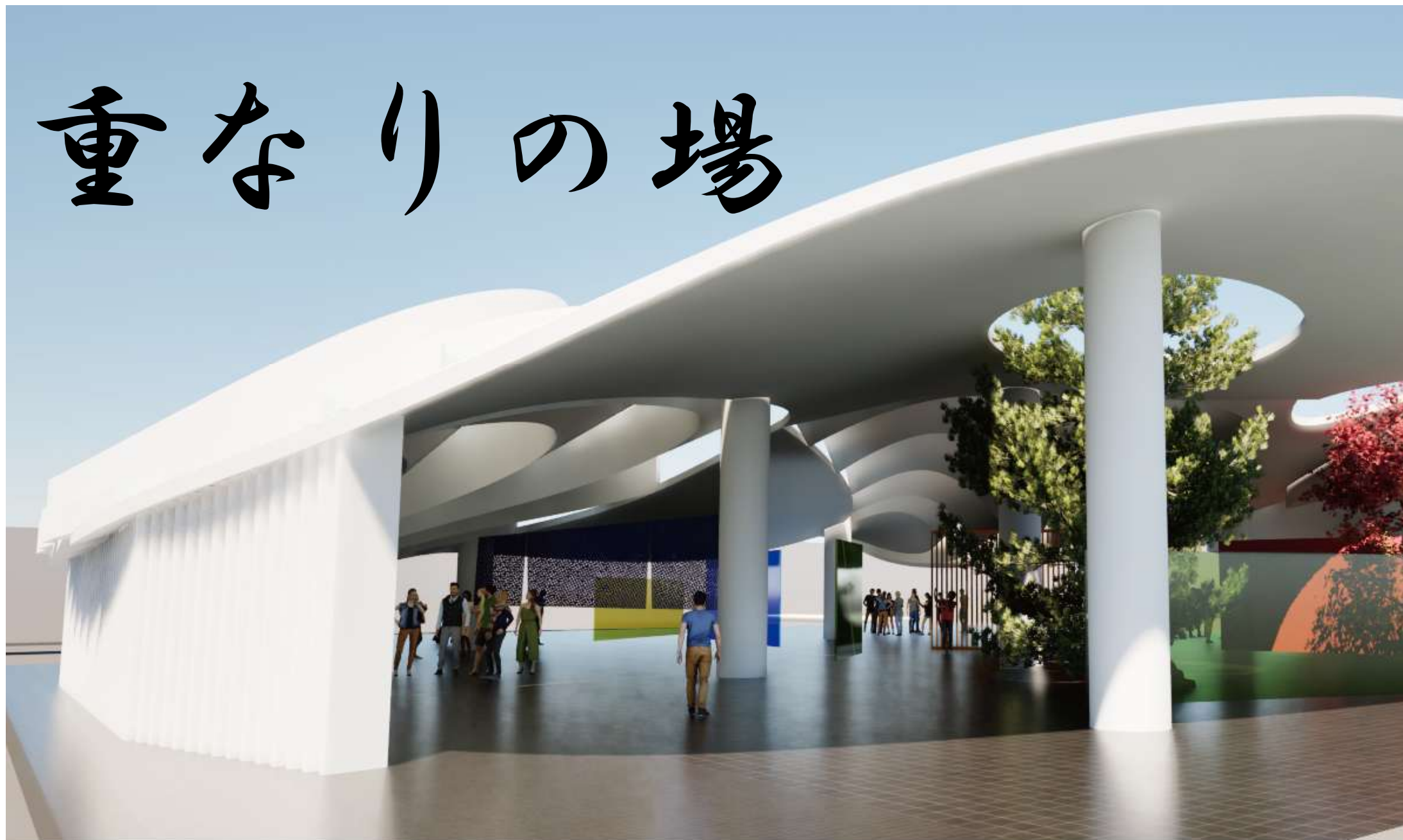


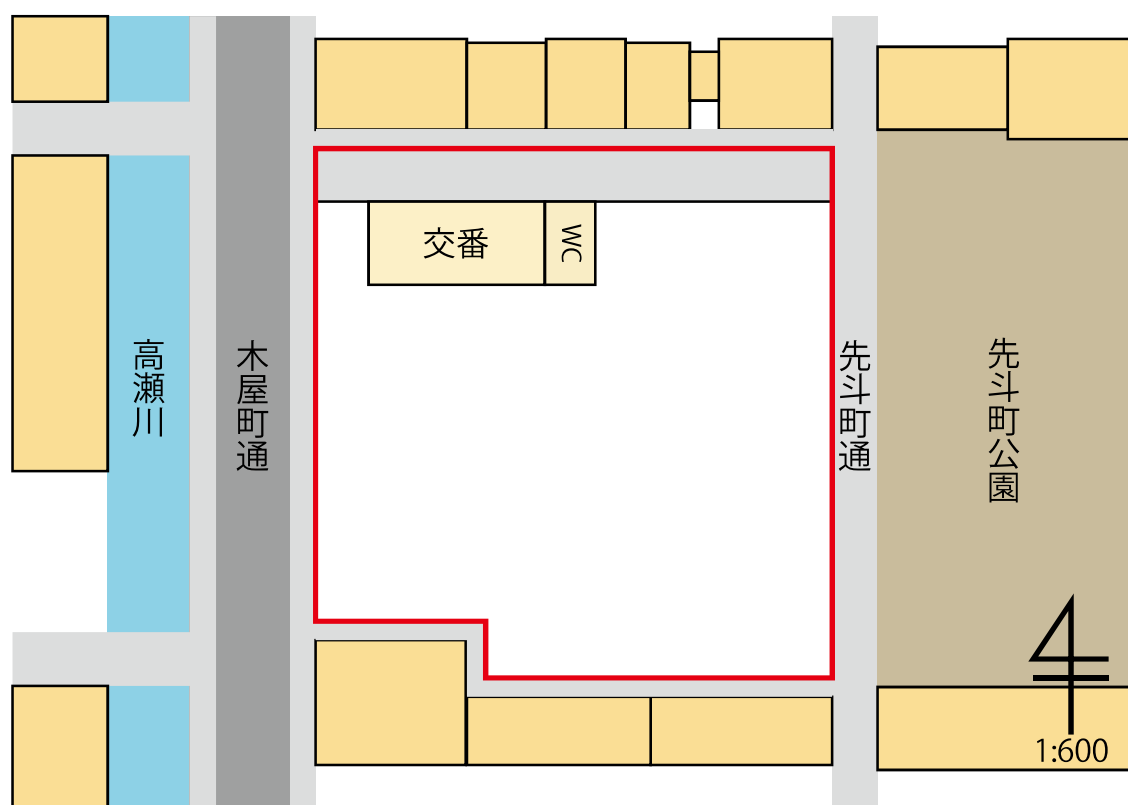
重なる場



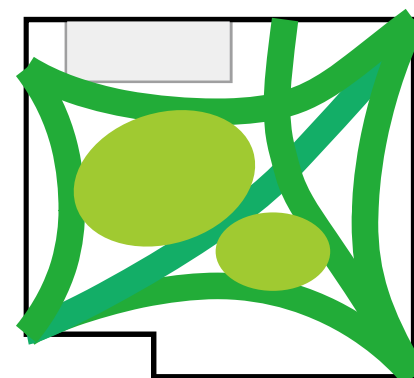
和は重ねあわせの文化である。十二単や浮世絵がその最たる例だろう。そしてこれは空間も例外ではない。古くから屏風やふすま、障子を組み合わせることで空間を作ってきた。また、借景も景色と庭園の重ね合わせが生み出した技術である。

要素の重なりは空間に雰囲気をもたらし、雰囲気はそこでの人々の振る舞いを導く。そして、人々の振る舞いの違いは空間を区切り、場生まれる。

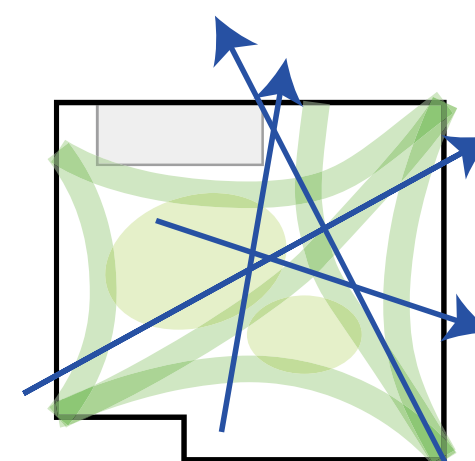
そんな重ね合わせを用いることで我々は現代の街に新たな和の空間を生み出すことを目指した。人々が自在に通り抜けられる場、人々が軽く集う場、そして人々が滞在できる場を要素の重ね合わせによって生み出し、そしてこれらの場を、重なった要素によって緩やかにつなぎあわせた。



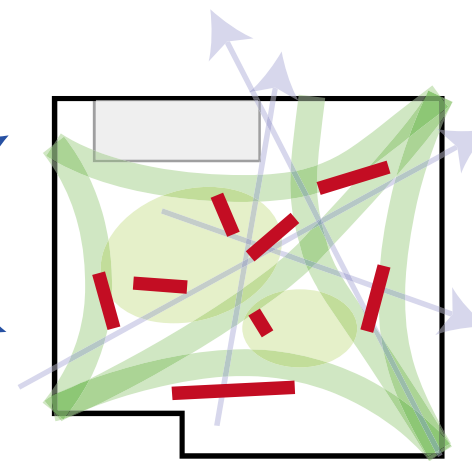
敷地には京都市中京区の鴨川沿いに走る道先斗町通とその一本西を走る木屋町通りに挟まれた土地を選んだ。東側には先斗町公園があり、木屋町通り側からはこの土地を通して鴨川が見え、道幅が細い先斗町を歩いていると急に視界が広がり思わず滞在したくなる場所である



木屋町通りと先斗町通をつなぐ導線、人のたまり場を設定する



複数のの主となる視線を考える



視線と重なりを意識してレイヤーを挿入する